

政策評価の標準化

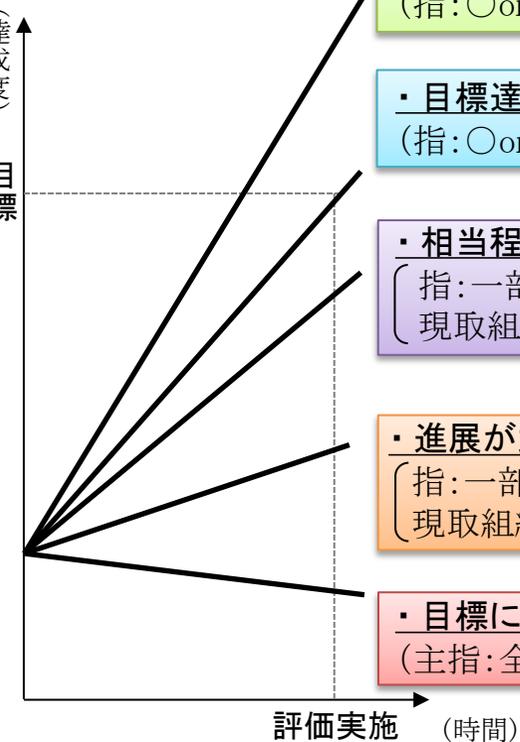
問題意識

各府省の評価結果がバラバラで、施策の進捗状況が分かりづらい
 (目標達成度について、6府省は独自の評価区分を設定、その他府省は定性的に記述)



各府省共通の5区分により、施策の進捗状況を横断的かつ分かりやすく把握することが可能に

<5区分のイメージ>



・ **目標超過達成**
 (指: ○ or ◎、主指: ◎)

・ **目標達成**
 (指: ○ or ◎、主指: ○)

・ **相当程度進展あり**
 (指: 一部×、主指: ≐○)
 現取組継続→達成近い

・ **進展が大きくない**
 (指: 一部×、主指: ≠○)
 現取組継続→達成遠い

・ **目標に向かっていない**
 (主指: 全 or 一部×、進展なし)

<「目標超過達成」の活用イメージ>

- ・担当職員の尽力が大きかったため、人事評価の際に考慮
- ・目標設定が甘すぎたため、次期目標をより高い水準に設定
- ・資源投入量が大きすぎたため、次期は他の施策に資源を振替え

<「目標達成」の活用イメージ>

- ・取組が効果的であったため、類似施策に同様の手法を活用
- ・目標達成したため、一層の効率化や工夫の余地を検証した上で、更に向上すべく次期目標を引上げ
- ・達成したが現場の実感が伴わないため、目標設定を抜本的見直し

<「相当程度進展あり」の活用イメージ>

- ・達成まであとわずかであるため、取組変更ではなく、運用面で工夫
- ・目標達成と同視できるため、取組を更に進展

<「進展が大きくない」の活用イメージ>

- ・既存事業では進展が見込めないため、取組方針を抜本的見直し
- ・貢献度の小さい事務事業について、有効性を上げるべく検討

<「目標に向かっていない」の活用イメージ>

- ・実績が上がっていない事務事業を廃止も含めて抜本的見直し
- ・目標達成に向かっていないため、施策を廃止

指: 測定指標

○: 達成

×: 未達成

主指: 主要な測定指標

◎: 大幅に上回って達成

≐○: 達成に近い未達成

≠○: 達成に近くない未達成

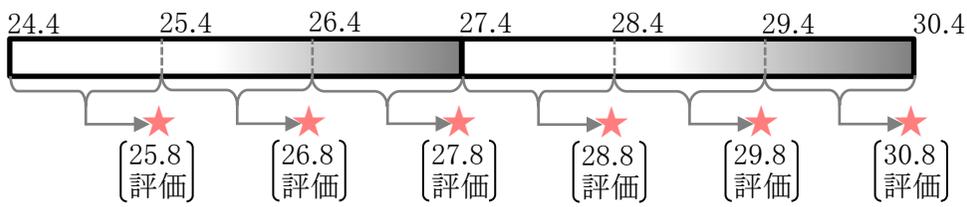
政策評価の重点化

実施時期の重点化

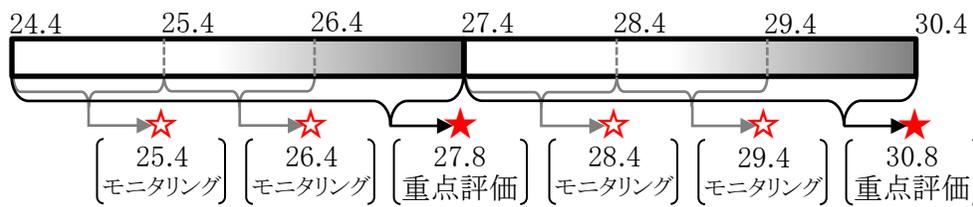


単に毎年度評価を実施するのではなく、施策の節目にあわせて実施 (評価未実施の年度は、モニタリングで進捗管理)

<これまでの例>



<これからの例>



〔モニタリングの結果が悪い場合は、評価を前倒して実施し、早期に問題点を把握し施策を立て直す〕

内容の重点化



目標達成状況のチェックだけでなく、下記の深掘りをして踏み込んだ評価へ

① 事前に想定できなかった要因の分析

〔外部要因による影響(±を問わず)はあったか〕

② 達成手段の有効性・効率性の検証

〔目標を達成するための手段である事務事業が有効的かつ効率的に機能しているか〕

③ 未達成となった原因の分析

〔取組自体を変更する必要があるのか、それとも運用面の工夫でことたりるのか〕

④ 目標の妥当性と必要な見直し

〔事前に設定した目標は、甘すぎず、厳しすぎず 適切であったか〕